



欧州景気概況(2022年9月)



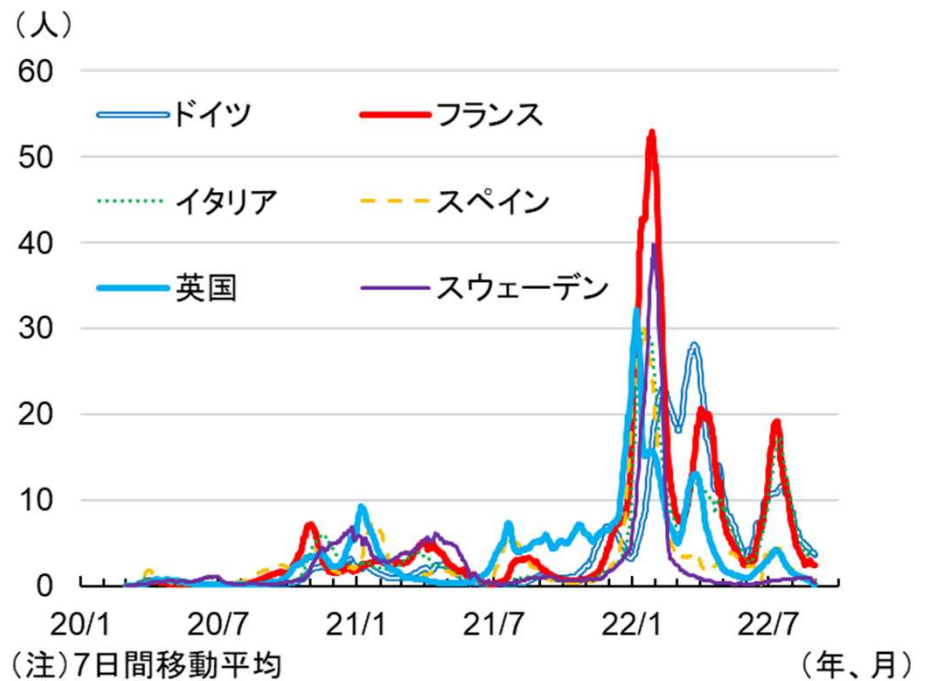
2022年9月2日

調査部 副主任研究員 土田陽介

新型コロナウイルスの感染状況

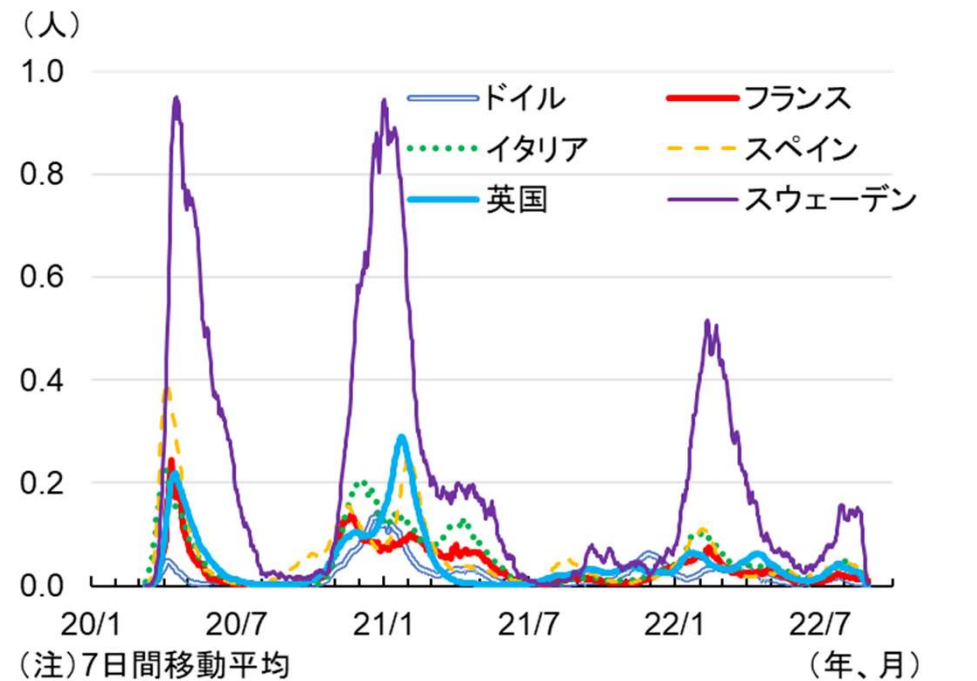
欧州では、新規感染者数が減少傾向にあり、また死者数も増加していない。もっとも、各国とも積極的疫学調査を行っておらず、新型コロナとの共生が一般化している。

人口一人当たりの新規感染者数



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

人口百万人当たりの新規死亡者数

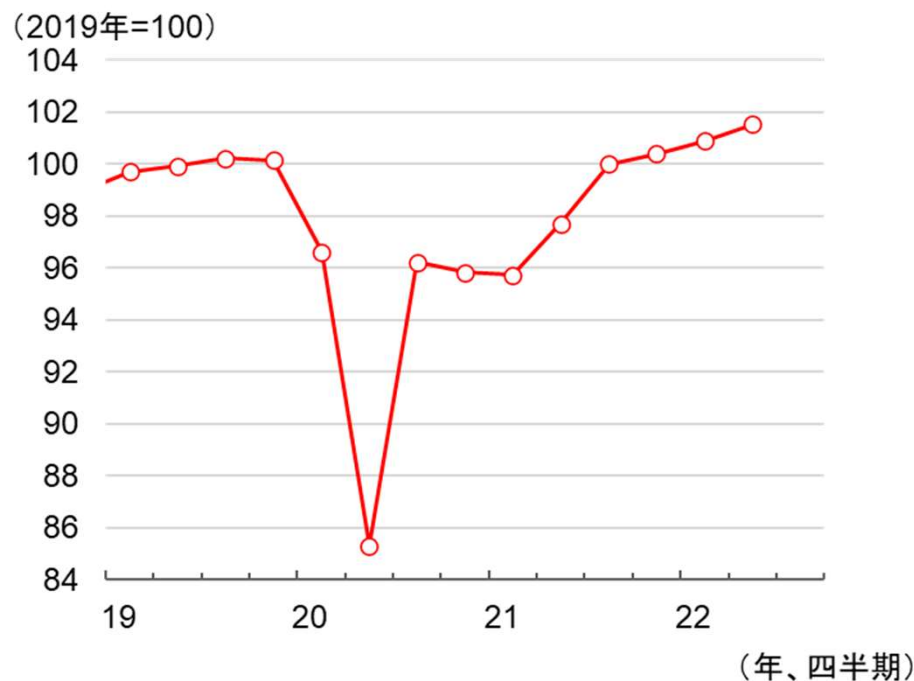


(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

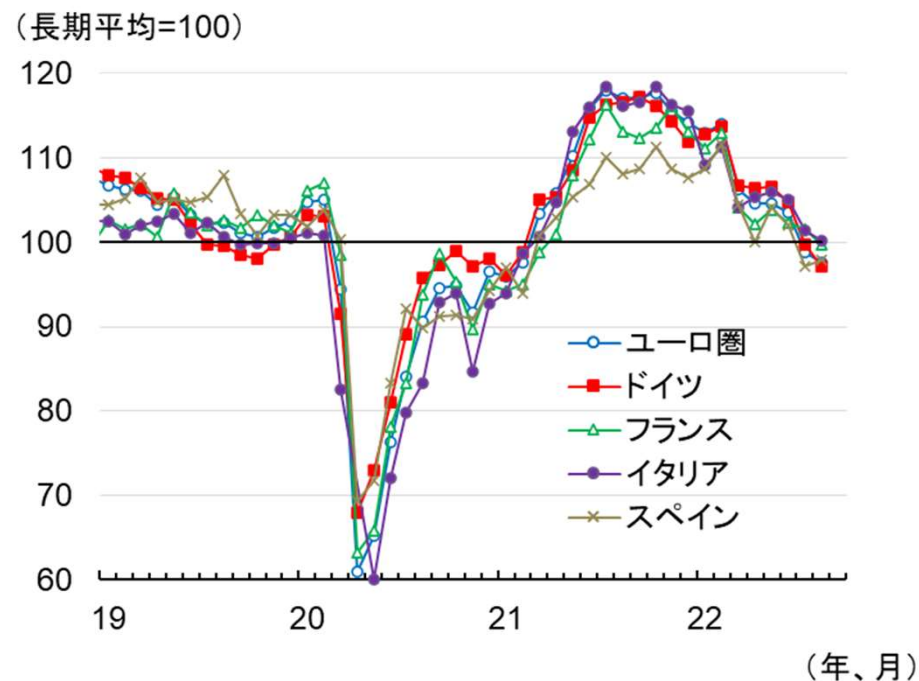
ユーロ圏の4-6月期の実質GDP(改定値)は前期比+0.6%と、1-3月(同+0.5%)から増勢が加速した。とはいえ月次指標からは個人消費の弱さが読み取れ、景気の実勢は数値の印象ほど強くない模様。また8月の景況感指数は97.6と3ヶ月連続で低下しており、景気の弱さを物語る。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数



(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は増加

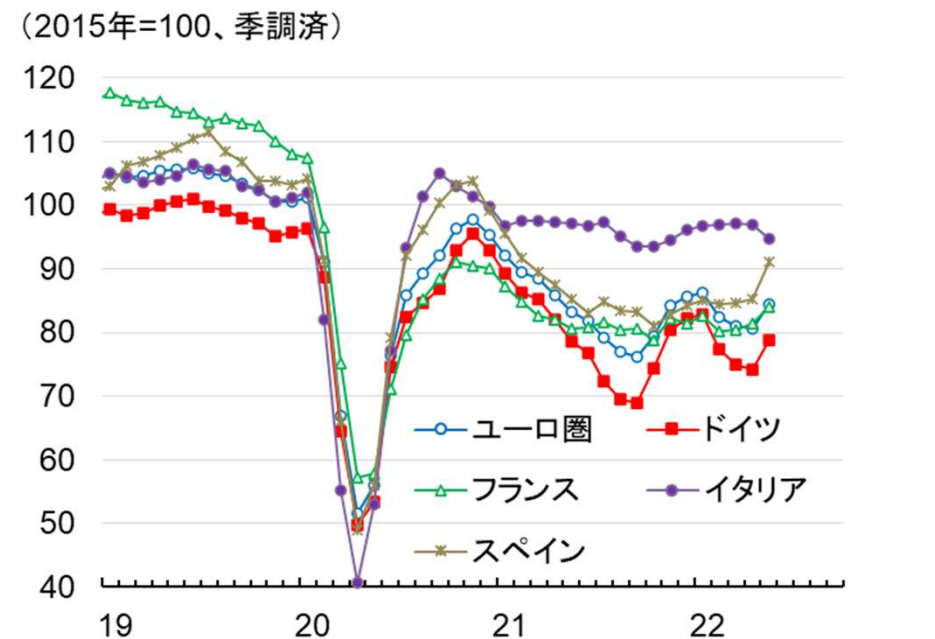
ユーロ圏の6月の鉱工業生産は前月比+0.7%と3ヶ月連続で増加しており、均した動きも上向き。ロシアのウクライナ侵攻に伴うサプライチェーンの混乱はある程度緩和した模様。また鉱工業生産ベースで見た自動車生産も、調整が一服している。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット (年、月)

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット (年、月)

ユーロ圏景気概況③ 消費は悪化

ユーロ圏の6月の小売数量は前月比-1.2%と再び減少しており、均した動きも下向き。同月の新車販売台数は前月比+2.5%の年率728万台と再び増加したが、均した動きは底這い状態。インフレの加速や金利の上昇が消費の下押し圧力になっている模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット (年、月)

新車販売台数

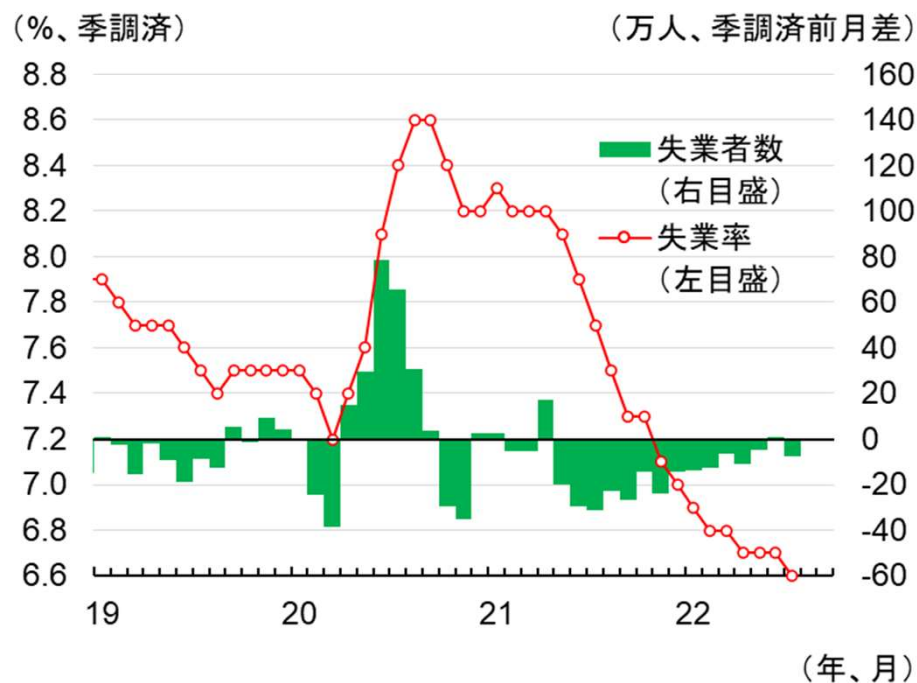


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行(ECB) (年、月)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善

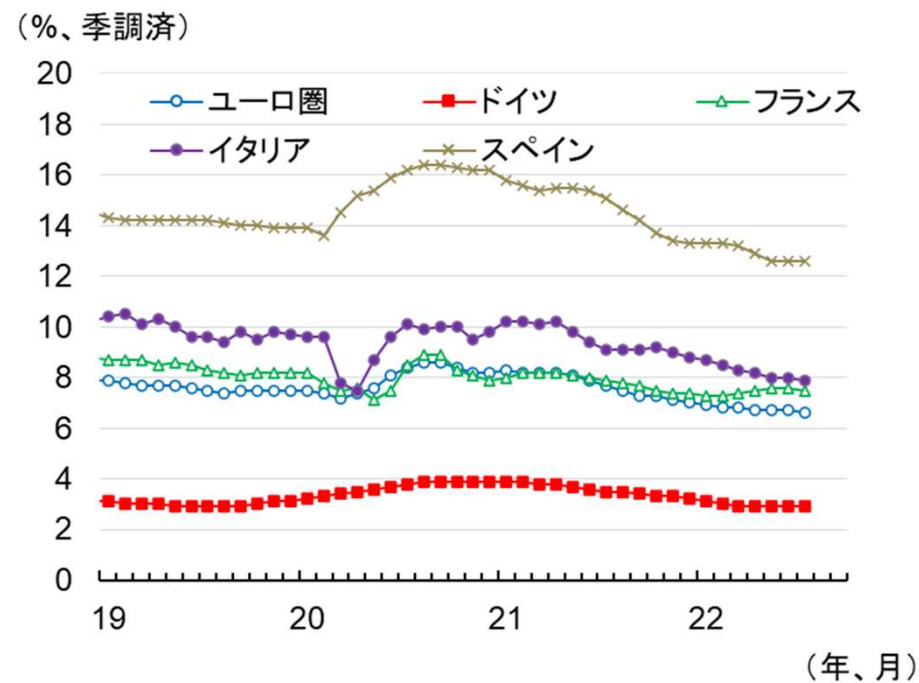
ユーロ圏の7月の雇用統計では、失業率が6.6%と4ヶ月ぶりに低下し、失業者数も前月比7.7万人減と、雇用は改善した。主要国別に失業率をみると、イタリアは低下したが、その他の国々は下げ止まっている。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

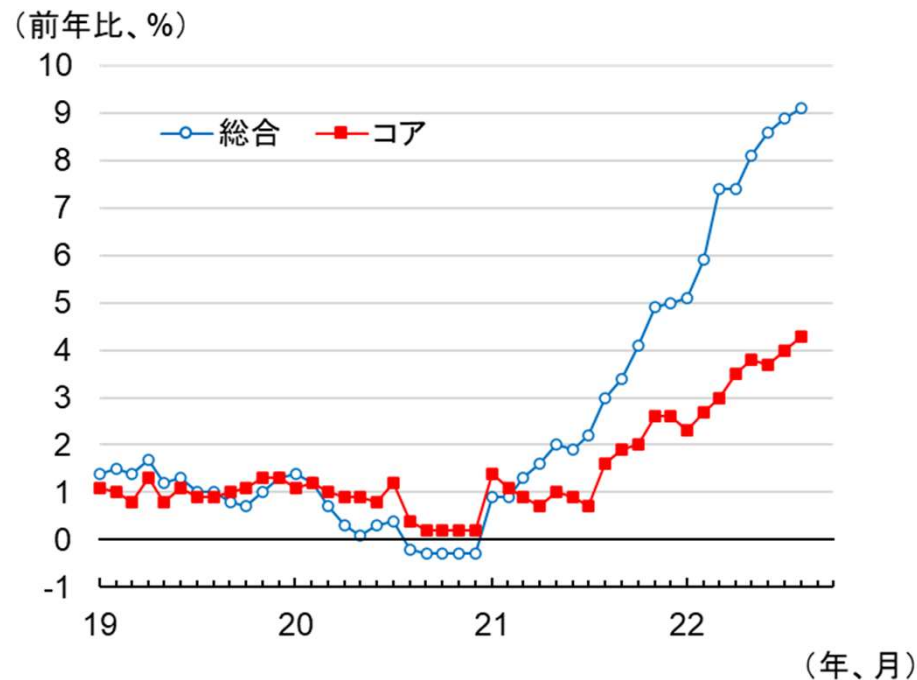


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速

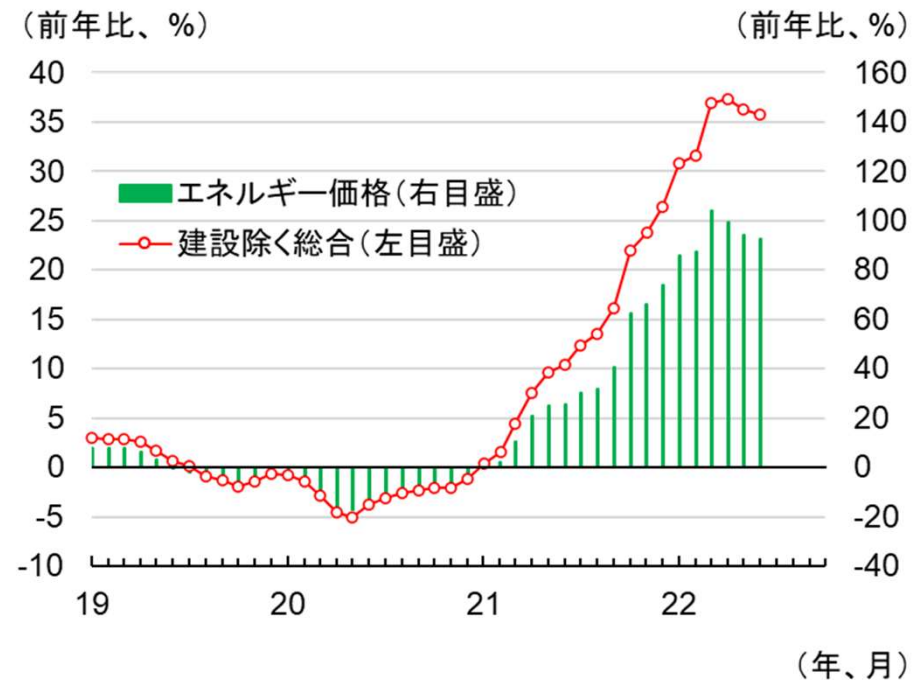
ユーロ圏の8月の消費者物価(速報値)は前年比+9.1%と、インフレが加速した。先行指標である生産者物価(建設を除くベース)は6月時点で前年比+35.8%と、前月(+36.2%)から小幅だが伸びが鈍化した。うちエネルギー価格は+94.4%と2ヶ月連続で伸び幅が縮小した。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

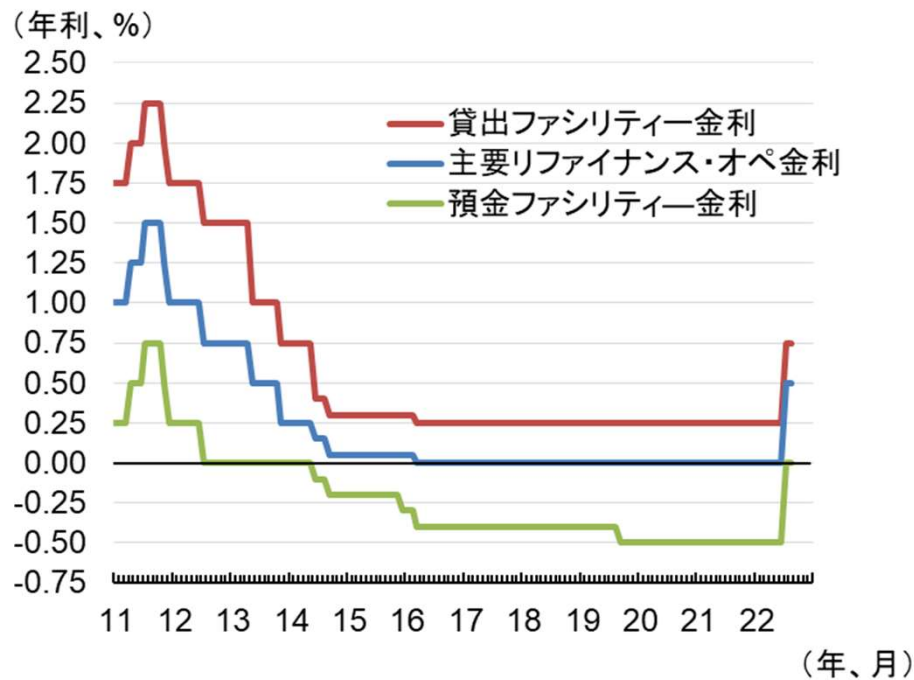


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは7月理事会で利上げを実施

欧州中央銀行(ECB)は7月21日に定例理事会を開催、各種政策金利を0.5%ずつ引き上げた。重債務国の金利上昇の抑制に関しては、6月15日の臨時理事会での決定どおり、まずはPEPPの再投資柔軟化で対応することが確認されるとともに、「市場分断防止策(TIP)」の概要も発表された。次回理事会は9月8日を予定。

ECBの政策金利



(出所) 欧州中央銀行(ECB)

7月理事会での決定内容の概要

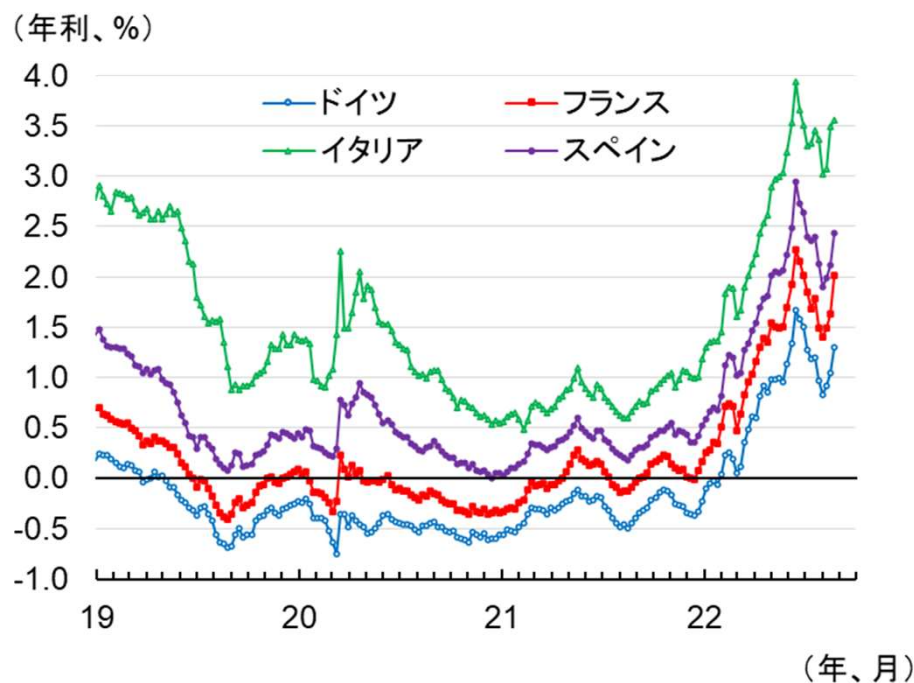
主な決定事項	内容
政策金利	<ul style="list-style-type: none"> ■各政策金利を0.5%ずつ引き上げ ・貸出ファシリティ金利 0.25%→0.75% ・主要リファイナンス・オペ金利 0.00%→0.50% ・預金ファシリティ金利 ▲0.50%→0.00%
資産購入の再投資政策	<ul style="list-style-type: none"> ■資産購入プログラム(APP) ・再投資は金融環境の安定が確認された後に終了 ■パンデミック緊急購入プログラム(PEPP) ・再投資は2024年末で終了 ・各国中銀の出資比率に応じた資産購入などを適用せず、柔軟な購入を行う
市場分断防止策(TPI)	<ul style="list-style-type: none"> ■TPIの適用条件 ・EUが定める財政ルールの順守 ・健全なマクロ経済運営(過剰な経常赤字の是正など) ■TPIの具体的な手段 ・流通市場での国債購入、金額は無制限 ・購入対象資産は国債が中心、社債も視野、満期1~10年 ・状況が改善すれば終了 ・経済の基礎的条件に基づく金利上昇には適用せず

(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇後に下落

8月のユーロ圏の長期金利は上昇した。インフレ加速を受けて、ECBが9月の政策理事会で大幅な利上げを実施するとの思惑が金利を押し上げた。一方で、株価は上昇後に下落した。月前半は米国の利上げ一服への期待から株価は上昇したが、月後半は世界的な利上げで景気が悪化することへの懸念から株価が下落した。

長期金利



(出所) ECB

株価 (Eurostoxx50)



(出所) STOXX

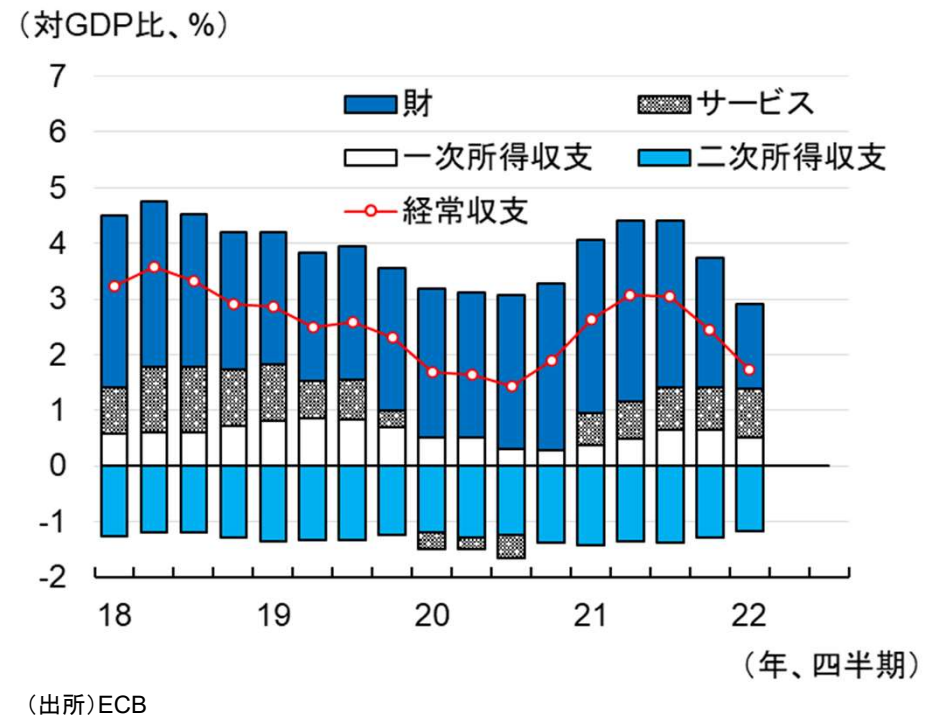
ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで下落、対円で上昇

8月のユーロ相場は対ドルで下落、対円で上昇。対ドルでは、米国が引き続き利上げを進める方針が確認されたことからユーロ安が進んだ。対円では、ECBによる利上げ期待を受けてユーロ高が進んだ。経常収支は財貿易収支の黒字幅が徐々に縮小しており、実需面からのユーロ買い圧力は弱まっている。

ユーロ相場



国際収支

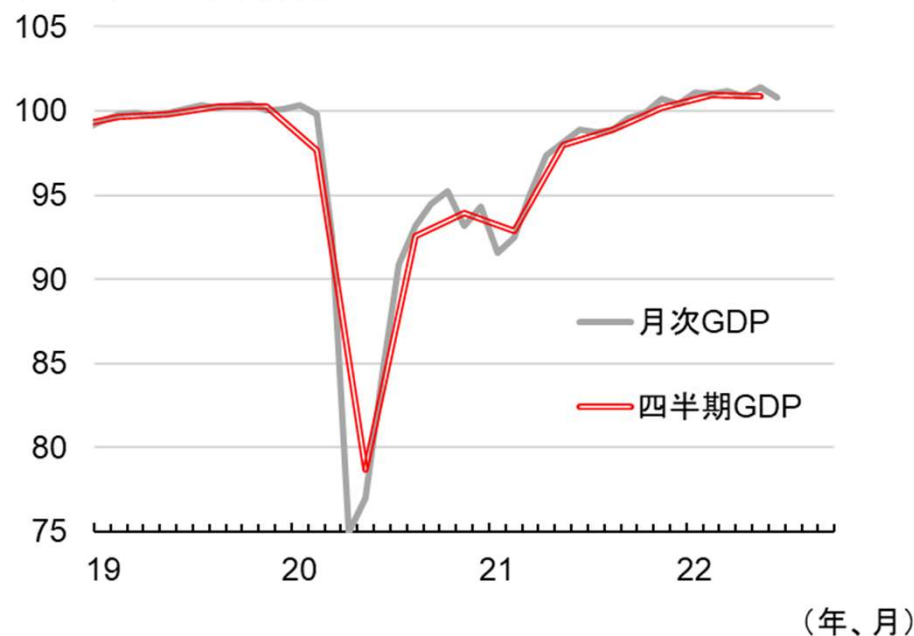


英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の4-6月期の実質GDPは前期比-0.1%と、昨年1-3月期以来のマイナス成長になった。産業別には、サービス業が堅調を維持し、また工業も復調したが、建設業が不調だった。また6月の月次実質GDPは前月比-0.6%と、再び減少した。

実質GDP

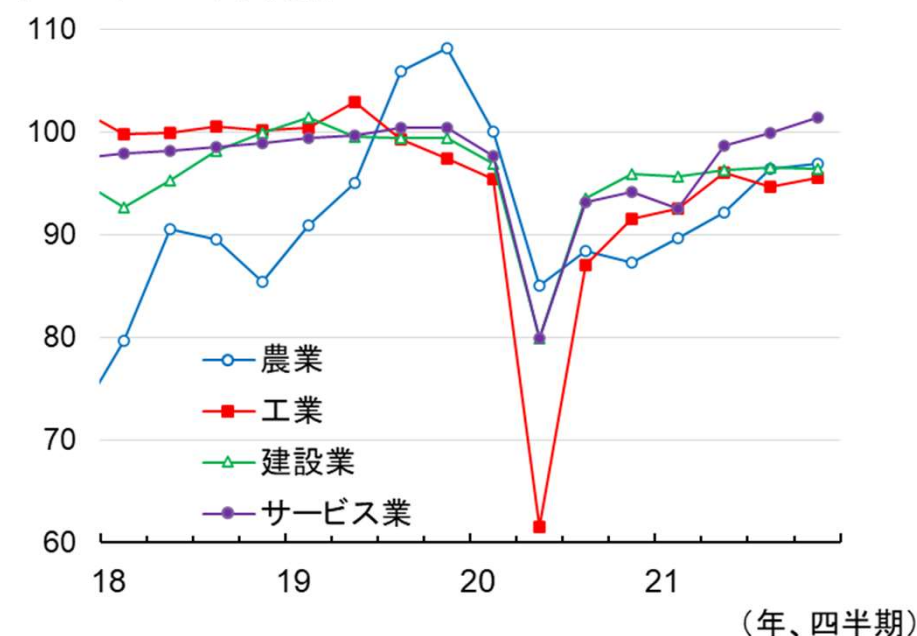
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

(2019年=100、季調済)



(出所)ONS

英国景気概況② 生産はまちまち

英国の6月の鉱工業生産は前月比-0.9%と再び減少したが、均した動きは上向き。また同月の実質輸出も同-9.3%と大幅に減少したが、均した動きは横ばい圏で推移。一方で、同月のサービス生産は前月比-0.6%と再び減少、均した動きも下向き。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

英国景気概況③ 消費は低迷

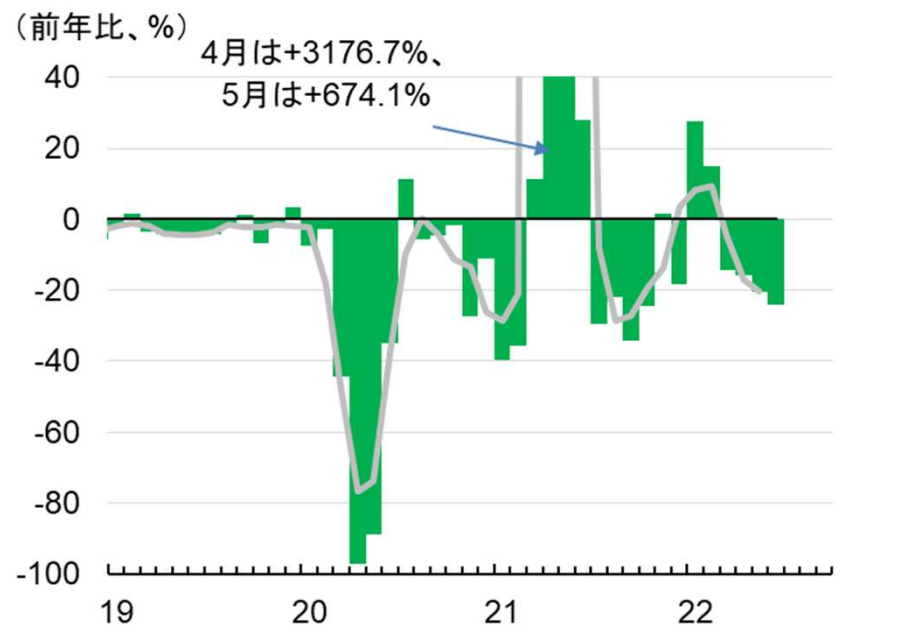
英国の7月の小売数量(除く石油)は前月比+0.4%と2ヶ月連続で増加も、均した動きは下向き。一方で、6月の新車販売台数(乗用車)は前年比-24.3%(14.1万台)と2ヶ月連続でマイナス幅が拡大、均した動きも前年割れが定着している。インフレの加速や金利の上昇が消費の下押し圧力になっている模様。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

新車販売台数(乗用車)

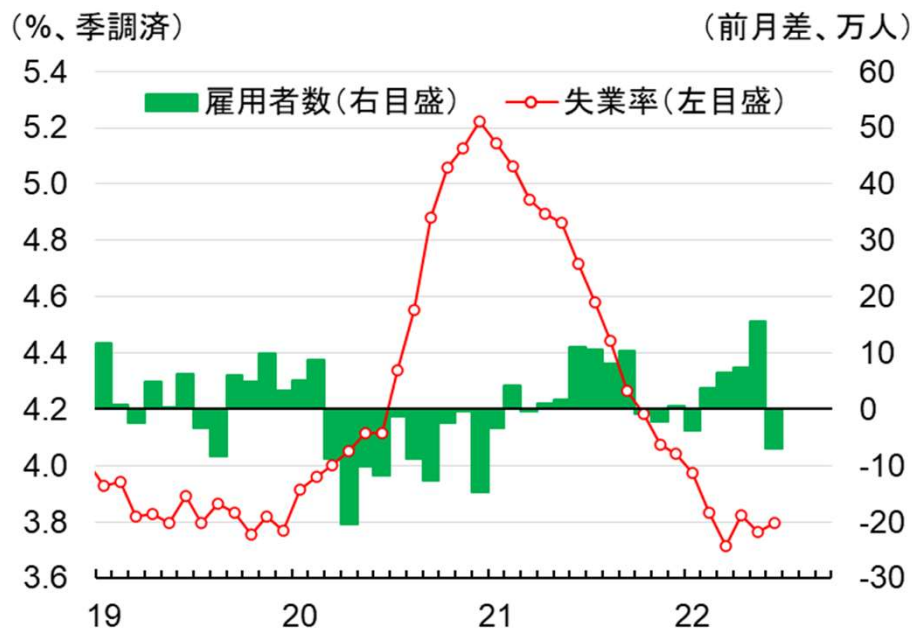


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況④ 雇用は改善

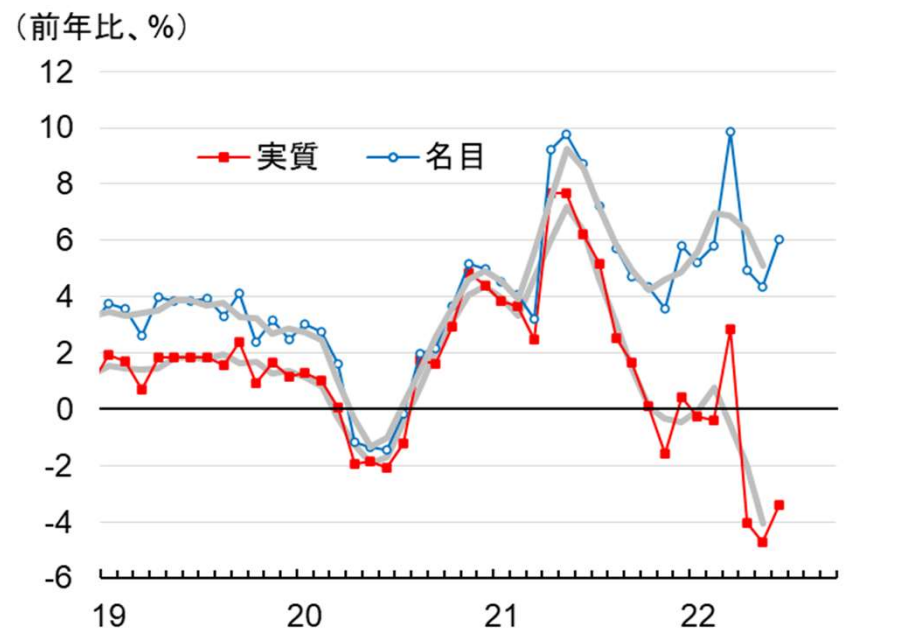
英国の6月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が3.8%と3ヶ月連続で同水準を維持した一方、雇用者数は前月比7.1万人減と1月以来の減少に転じており、雇用は改善が一服している。均して見た賃金の増勢は名目ベースでは伸びが鈍化しており、消費者物価で実質化した実質ベースでは大幅な前年割れとなっている。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値
(出所) ONS (年、月)

平均賃金(週給)

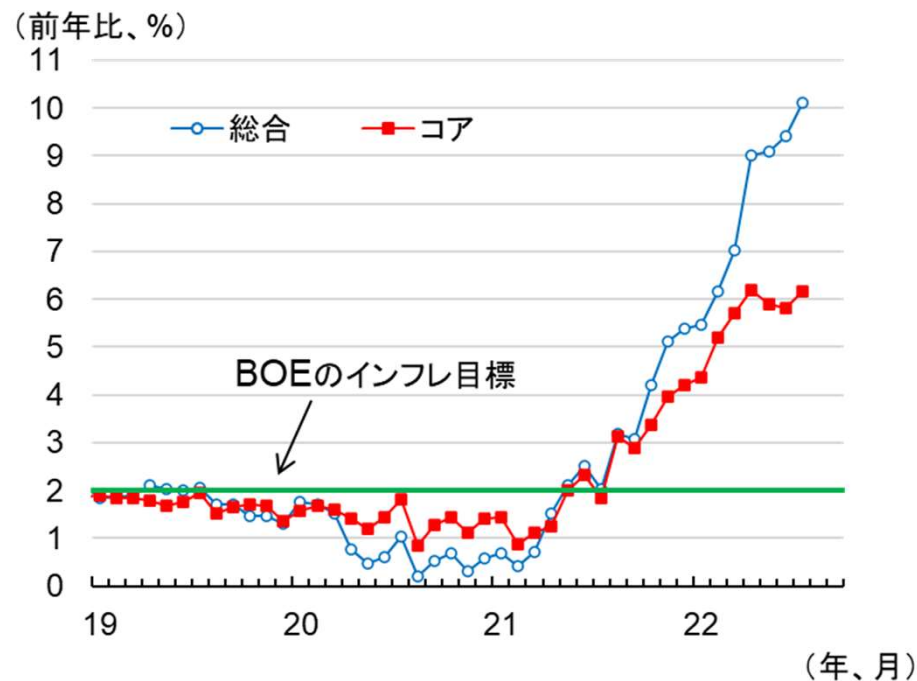


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ONS (年、月)

英国景気概況⑤ 物価はインフレが加速

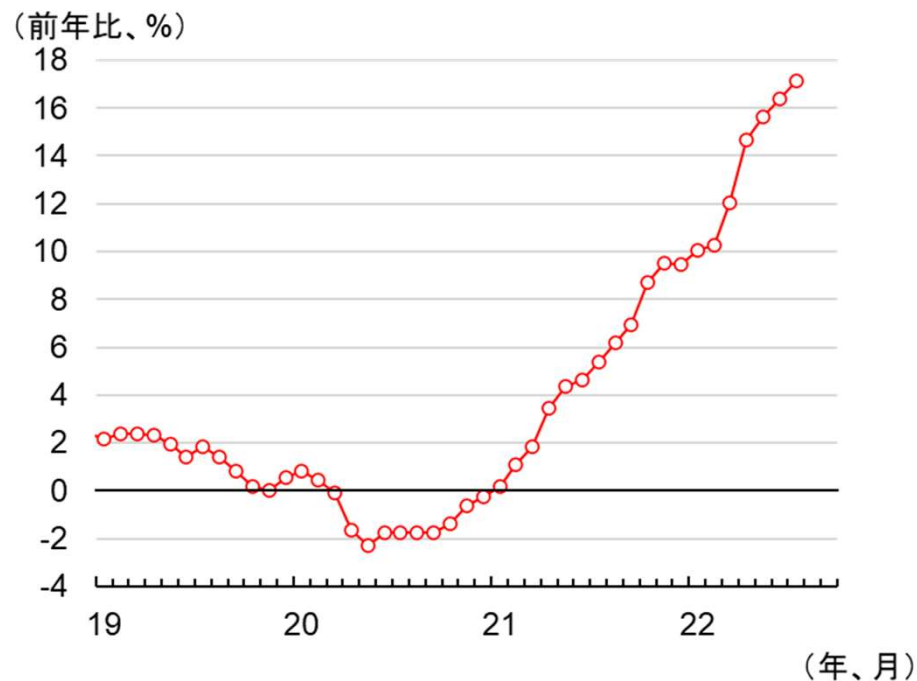
英国の7月の消費者物価は総合ベースで前年比+10.1%と、1982年2月以来の高水準まで伸びが加速した。同月の生産者物価も同+17.1%と伸び幅の拡大が続いており、今後もインフレが加速する可能性を示唆。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

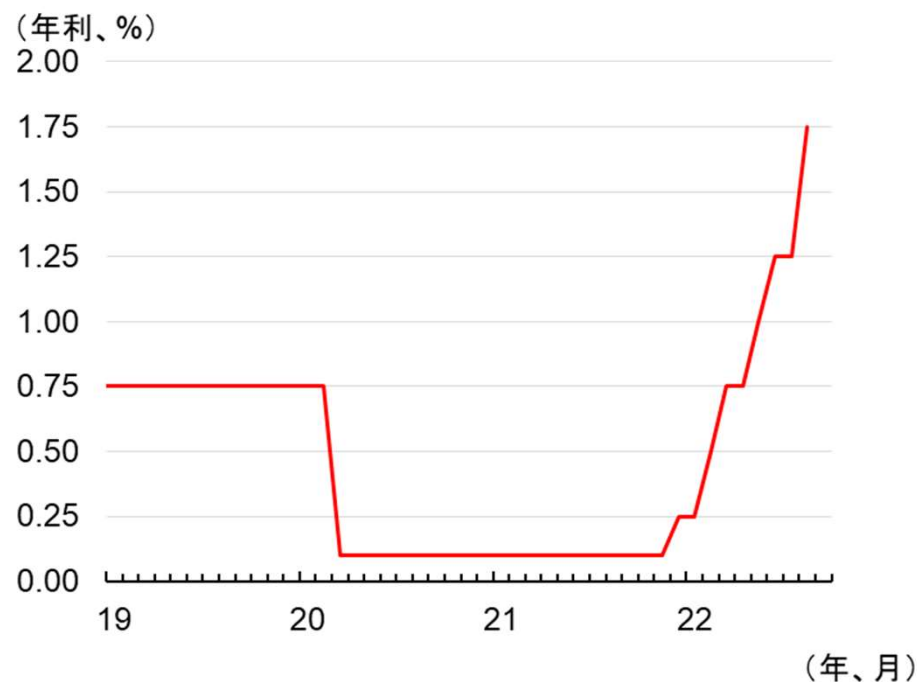


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは8月委員会で追加利上げを実施

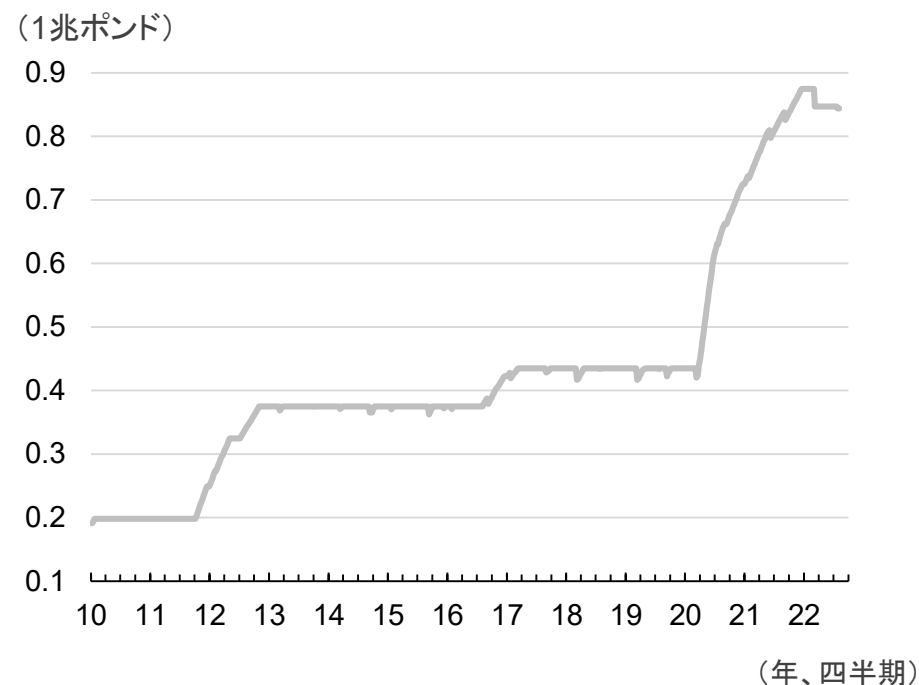
イングランド銀行(BOE)は8月4日に定例の金融政策委員会(MPC)を開催、政策金利(バンクレート)を0.5%引き上げて年1.75%にした。また BOE は、9月15日の次回 MPC で承認された場合、量的緩和に相当する資産購入プログラム(APP)の下で買い入れてきた英国債を、金融市場で売却する方針を表明した。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

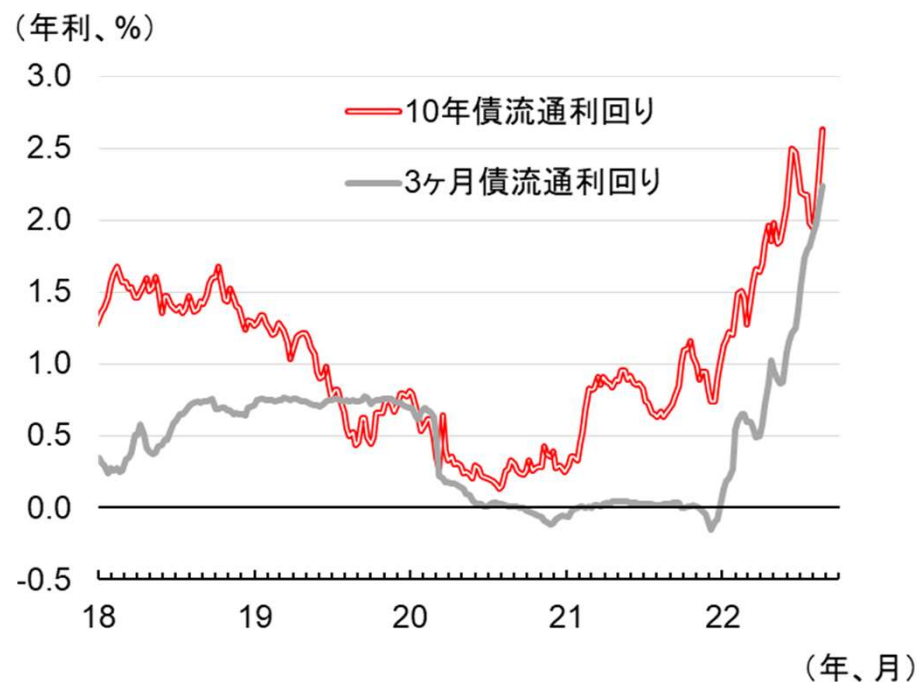


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇後に下落

8月の英国の長期金利は上昇した。インフレの加速が止まず、今後も利上げが続くとの見方から金利は上昇した。一方で、株価は上昇後に下落した。月前半は米国の利上げが一服することへの期待から株価は上昇したが、月後半は世界的な利上げで景気が悪化することへの懸念から株価が下落した。

金利



(出所)BOE

株価 (FT30指数)

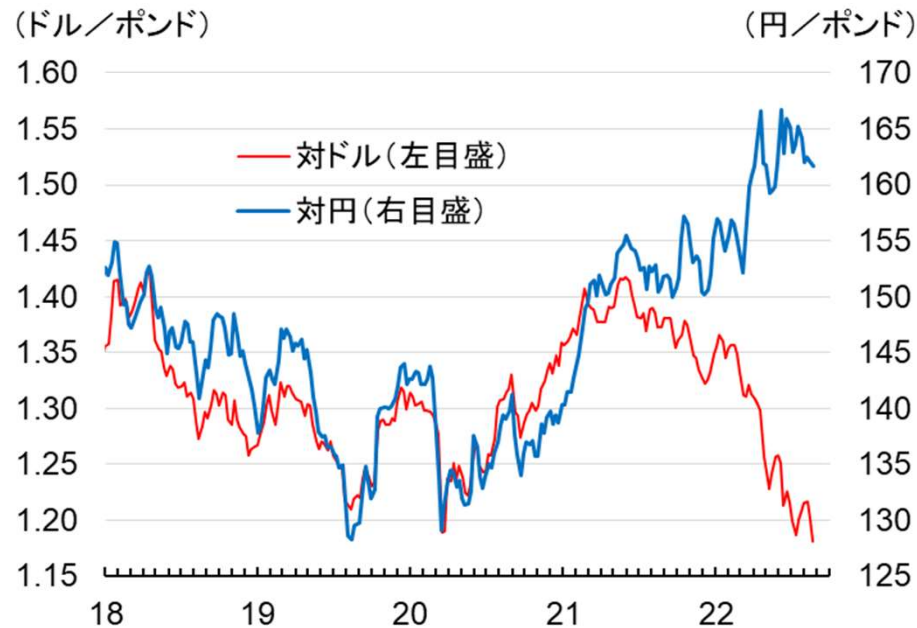


(出所)BOE

英国景気概況⑧ 対ドルで下落後に上昇、対円で横ばい

8月のポンド相場は対ドル、対円で下落。英国の景気に対する悲観的な見方からポンド売りが先行した。国際収支は、経常収支が赤字を拡大させており、実需面からのポンド買い支え圧力は弱い。

ポンド相場

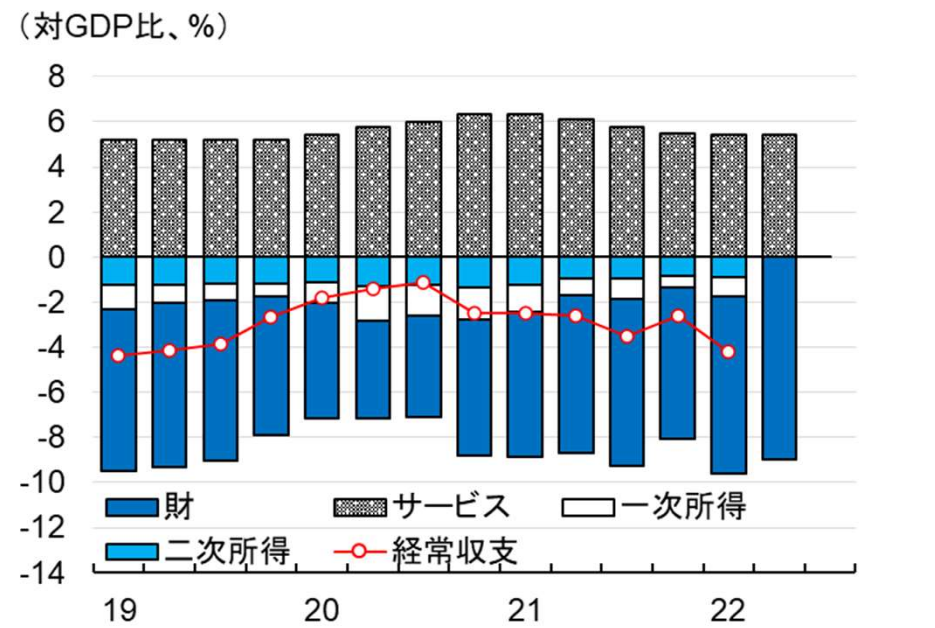


(注)週次レート

(出所)BOE

(年、月)

国際収支



(出所)ONS

(年、四半期)

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください